タイトル

まちのこ隊

応募者

仲村明代さん（福岡県、フリーランス）

アイデアについて

①アイデアのタイトル

まちのこ隊

②アイデアの対象となるお寺の環境は？（例：過疎地・過密地・市街地・農村・漁村・島等）

初期の段階では市街地にあるお寺。特に周辺に高校、大学がある地域。中長期的には周辺に町村があるお寺はどこでも。

③アイデアの対象となる人たちは？（例：地域の子どもたち、小さい子を持つお母さん、若者等）

初期の段階では主に高校生以上の生徒、学生。中長期的には制限しない。

④アイデアの概要（目的・方法・効果などを、200 字程度でお書き下さい。）

まちの若者から成る「まちのこ隊」の提案。地域のお寺を後見役＋活動拠点として、まちに繰り出し、じぶんたちにできることはないか呼びかける。そして、まちの人に必要とされた際にそのお手伝いをすることが「まちのこ隊」の使命である。小さい子たちは彼らを兄や姉のように慕うだろう。年配者は彼らを孫のように慕うだろう。彼らの目印はお揃いのユニフォーム、彼らを見つけたらぜひ一声をかけてほしい。

⑤アイデアの内容（アイデアについてできるだけ詳しくお書き下さい。）

まちのこ隊とは，まちの何でも屋の見習いのような存在だ．
決められた時間，まちを練り歩き，何かできることはないか探すのだ．そして，できることは率先してお手伝いをし，できないこともできるためにはどうしたらいいか考える．それが，まちのこ隊のつとめだ．

ある日のまちのこ隊．まちを歩いていると，ひとりのおばあちゃんが声をかけてくれた．「電球を取り替えたいのだけど，手伝ってくれないかしら．」そのくらいならお易い御用．おばあちゃんは，「どうもありがとう．」って言ってくれた．それからちょっとしたところにある公園で，小さな子が補助輪なしで自転車に乗ろうと練習していた．「どうしたら乗れるかわかんない… 」よし，それなら一緒に練習しよう．何度か一緒に練習をしてその子も自転車に乗ることができた．

またある日のまちのこ隊．駅前で困っている人を発見．「どうしたんですか？」「〇〇に行きたいんだけど，どう行ったらいいかしら．」（うーん，その場所のことはわからないなぁ．）でも，どうしたらわかるだろう．それなら一緒に考えるのがまちのこ隊．交番で聞いてみる？バス停に何か書いてあるかも！近くの人にも聞いてみよう．そうしてその人は無事に目的地に向かって行ったし，まちのこ隊はひとつ「〇〇への行き方」を学んだ．

現在，多くのこどもたちが成長していく中で，地域社会にふれる機会もままならないまま社会へと押し出されて行っています．そこでは，小中学校や高校，大学では教えてくれないような社会や地域のルールに直面し，どうすればいいのかわからず目を背けてしまうことも少なくありません．では，じぶんが成長していく中で地域に関わる機会はどのくらいあるでしょうか．校区のこども会はせいぜい参加しても小学校低学年くらいまで．スポーツ大会のチームだって，中学生に上がれば卒業してしまいます．中には地域とは一切関わりを持たないまま，その人にとって寝起きする場所や実家がある場所にすぎないことだってあり得ます．

そこで提案するのが，まちのこ隊です．まちのこ隊は，主に高校生，大学生のボランティアからはじまります．そして，その後見役をお寺が受け持ちます．

まちのこ隊メンバー

- 高校生（有志，課外活動の一環，将来的には授業の一環など）
- 大学生（有志，サークル・クラブ活動の一環，将来的には授業の一環など）
- 後見人：お寺のみなさん（お寺一寺一寺に一まちのこ隊が所属する．）

活動内容

- まちを歩き知る．
- 決められた日時に１グループ３～４人ほどに分かれて，なにかお手伝いはできないか呼びかけながら歩く．（ex.　２週間に１日３時間，第１，３日曜日の午前中，など）
  例えば，
  - 電球の取り替え
  - 道路の掃除
  - 重いものの移動
  - 自転車の乗る練習を手伝う
  - 鉄棒の練習を手伝う
  - 宿題のサポートをする
  - などなど．
- ここでまちのこ隊にはいくつか規則を設けます．
  - お願いされたことの中で金銭の関わることには着手しない．（お使いの代行や他に地域でサービスや商品を提供している事物に関することなど．）
  - できないことをお願いされたとき，一緒に解決方法を考える．
  - 相談者の意思を尊重する．（決定権は相談者にある．）
- 活動の終わりには，お寺に集まって報告，反省会をする．

初期段階のまちのこ隊は以上のような内容で活動します．基本的にメンバーはボランティアです．（ただし，お茶やちょっとしたお菓子など必要最低限の飲食物は後見人のお寺で提供ください．）

まちのこ隊の５か年計画

初期（１～２年）

上記の活動内容を基本にまち（地域）でできることを行い，毎回の報告，反省会を通して課題に取り組む．メンバーも時間が経つに連れて増えていくことを期待する．

中期（３～４年）

まちのこ隊３年目以上のメンバーたちで年に２回ほど行事を企画することに挑戦する．企画を行う場所は後見役のお寺を基本とし，非営利の行事とする．

長期（５年）

メンバーの在隊期限の最長を５年とする．まちのこ隊を卒業後は，アドバイザーとしてまちのこ隊を見守る．

まちのこ隊のユニフォーム

ユニフォームは，活動していることをアピールできる必需品．デザインされたユニフォーム（要デザイン）を身につけることで隊の気持ちも引き締まる．

- 目印となるユニフォームを活動時には必ず着用すること．
- ユニフォームには必ず，後見役のお寺の名前を記すこと．
- 他に必要なものがあれば，随時付け加えること．
  例えば，名刺，三角巾，筆記用具など（これらもデザインの余地があります．）

まちのこ隊の立ち上げのきっかけの例

- ユニフォームづくりをひとつの企画として呼びかける．
- 地域の学校の課外授業として立ち上げる．
- 既存のこども会や門徒さんの集会で募集する．

最後に．
わたしが育ったまちは，こどもの行動範囲の中のほとんどが住宅だったにも関わらず，地域と関わったと思う思い出は，校区の運動会や廃品回収の際のお手伝いくらいで，それ以上のものがありません．提案の中にも例として挙げましたが，自転車に乗る練習も宿題もすべて家庭の中でのことであって，それでもできないことはお金をかけて習ったりサービスを受けたりすることで補われてきたように思います．ただし，そこに愛着はありませんでした．なにか家族というつながりの外にさらにもうひとつ大きなつながりがあるだけで，地域への愛着ももっとうまれやすくなるように思います．まちのこ隊が地域にとっての兄であり姉であり，息子，娘，はたまた孫のような存在になって欲しい．そのように思いこの提案をしました．

⑥添付資料（ここに記入しきれない内容、イラスト、写真、作品等の資料があれば別途添付して下さい。）

あり（　　）	・	**なし**